



SKY Perfect JSAT
Holdings Inc.

株主通信

2016年3月期

第2四半期

2015年4月1日～9月30日



変革から成長へ。
新しい未来の夢が、
ひろがります。

株式会社スカパーJSATホールディングス

次期中期経営計画の礎を固めるべく、 中長期的な成長戦略を着実に 遂行しています。

2015年12月
代表取締役社長

高田 真治



2016年3月期第2四半期の業績

**減収減益ながら、会社計画通りに進捗しており、
通期の業績予想に変更はありません。**

2016年3月期第2四半期の当社グループの営業収益は前年同四半期比0.8%減の817億円、営業利益は15.3%減の108億円となりました。

有料多チャンネル事業では、「スカパー！」の加入件数が順調に増加しましたが、「スカパー！プレミアムサービス」の標準画質サービスにかかる収益が前年度には計上されていたことなどから営業収益の前年同四半期比では減収となりました。営業利益は、「スカパー！」の業務手数料収入が増えたものの、期初より「BSスカパー！」や4K放送などのコンテンツ費用を積極的に投入したことにより、前年同四半期比では減益となりました。

宇宙・衛星事業は、船舶向けインターネットサービス収入などが増えましたが、上述の標準画質サービス終了により放送トランスポート収入が剥落し、前年同四半期比で減収減益となりました。

このように第2四半期時点では減収減益ですが、前期の標準画質サービス終了の影響など特殊な事情に起因しており、ほぼ計画通りに進捗しているため通期の業績予想は変更しておりません。

2016年3月期下期の取り組み

**有料多チャンネル事業ではコンテンツによる
差別化戦略を継続し、宇宙・衛星事業では
海外事業者とのアライアンス強化により
競争力を加速します。**

中期経営計画の総仕上げとなる下期においても、引き続き中期を展望した成長戦略を着実に推進することで、次期中期経営計画の礎を固めてまいります。

有料多チャンネル事業においては動画配信サービスなど視聴形態が多様化する中、「Jリーグや海外サッカーに加えて、人気急上昇のラグビーなどの各種スポーツやビッグアーティストのライブといった生中継コンテンツによる差別化戦略を一層推し進めてまいります。

また、4K専門チャンネルでは、高精細な画質と広い色域によって新たな演出表現が可能になるコンテンツを中心に充実を図りつつ、4Kテレビへの「スカパー！プレミアムサービス」チューナー内蔵化に合わせた販売促進活動を強化し、プレミアムサービスの加入基盤と収入の拡大を目指します。

さらに、格段に臨場感を高める最先端の技術であるHDR (High Dynamic Range)*放送の実現に向けた伝送実験を行うなど衛星放送の機動性とキャパシティを活用する様々な取り組みを推進してまいります。

2016年3月期第2四半期

営業収益

817 億円

前期比
0.8%減

DOWN

営業利益

108 億円

前期比
15.3%減

DOWN

親会社株主に帰属する 四半期純利益

70 億円

前期比
30.0%減

DOWN

本年5月に設立したWAKUWAKU JAPAN(株)による海外向け日本コンテンツチャンネル事業が、インドネシア、ミャンマーに続き3カ国目となるシンガポールで7月から放送を開始しています。東京オリンピック・パラリンピック開催へ向け、世界各地で日本への関心が高まる流れを捉え、2020年度までに世界22カ国への展開という計画達成に向けてさらに加速してまいります。

宇宙・衛星事業においては、かねてより共同で衛星事業を行ってきた世界最大手の衛星事業者であるIntelsat S.A.(ルクセンブルク)と、HTS(High Throughput Satellite)システムを搭載した衛星を使った共同衛星プロジェクト「Horizons 3e」を立ち上げることが決まりました。HTSは、従来の衛星と比較し約10倍の通信容量が提供可能で、アジア・太平洋地域の衛星通信需要を着実に取り込むと同時に、新たな市場拡大を目指します。

また下期に打ち上げ予定の通信衛星「JCSAT-14」は、日本国内のみならず、アジア・太平洋の海洋エリアまでもカバーする海外ビームを搭載することから、モバイル市場での船舶向けインターネットサービス「OceanBB」の販売推進や、グローバル市場での衛星需要の取り込みに注力してまいります。また、来年度上期には新たに3機の通信衛星の打ち上げを予定しており、高品質で安定した衛星通信サービスを提供することで、グローバルマーケットでの競争を勝ち抜いてまいります。

国内市場においては、企業・官公庁のBCP(事業継続計画)向けソリューションの提供に引き続き注力しております。本年5月には、高速道路会社3社向けに防災プラットフォームサービス「EsBird」

の提供を開始したほか、5月末の口永良部島の噴火に際しては、当社衛星回線を利用した通信装置「ヘリサット」を搭載した災害対策用ヘリコプターが活躍するなど、衛星通信の強みを活かしたソリューションの提供が進んでいます。

また、このたび超小型衛星を開発・製造するアクセルスペース社への出資と業務提携を通じて、新たに低軌道・小型衛星市場へ参入することといたしました。超小型地球観測衛星の打ち上げ等により今後さらに高まることが期待される衛星画像解析等の需要に対応し、衛星周辺ビジネスにおける新たなビジネスチャンスを捉えてまいります。

※HDR(High Dynamic Range)ハイビジョン等の現行放送のダイナミックレンジ(明るい部分と暗い部分の明るさの対比)よりも広く撮影・記録・再生できる映像技術。視覚のダイナミックレンジに近くなるため、今までより自然で臨場感のある映像が期待できる。

株主還元

株主の皆様への利益還元につきましては、将来の成長へ向けた投資のための内部留保の充実と安定配当の継続を考慮し、2015年5月13日に発表しました通り、中間配当金については前年同期より1円増配の、1株当たり7円をお支払いすることを決議いたしました。年間では、前期より2円増配の1株当たり14円の配当を見込んでいます。

株主の皆様には、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

通信衛星を利用した 東南アジア教育支援プロジェクト

どんな支援をしているの?

スカパーJSATは、東南アジアの島々の学校や教育機関に対し、当社が持つ衛星通信・衛星放送のインフラ、技術、ノウハウを活かし、子どもたちに教育機会を提供するプロジェクトを推進しています。今回は、当社が衛星回線と超小型地球局VSATを無償提供してサポートしたインドネシアの教師向け研修をご紹介します。

衛星通信で学ぶ研修プログラム

衛星通信は、アンテナを設置さえすれば、比較的容易に通信環境が提供できることから、地上回線の敷設が難しい山間部や島しょ部での利用に適しています。東南アジアの島々は通信インフラが未整備で、電話やインターネットがまだ提供されていない地域があり、こうした地域の学校や教育機関に対して、当社の通信衛星を利用して、インターネットや遠隔授業等が提供できないか検討してきました。その結果、プロジェクトの第1弾として、インドネシアの民間教育財団であるYPPH(YAYASAN PENDIDIKAN PELITA HARAPAN)と協力し、同財団がインドネシア国内で運営する学校の通信環境を確立するために、当社の衛星回線とVSATを無償で提供することといたしました。

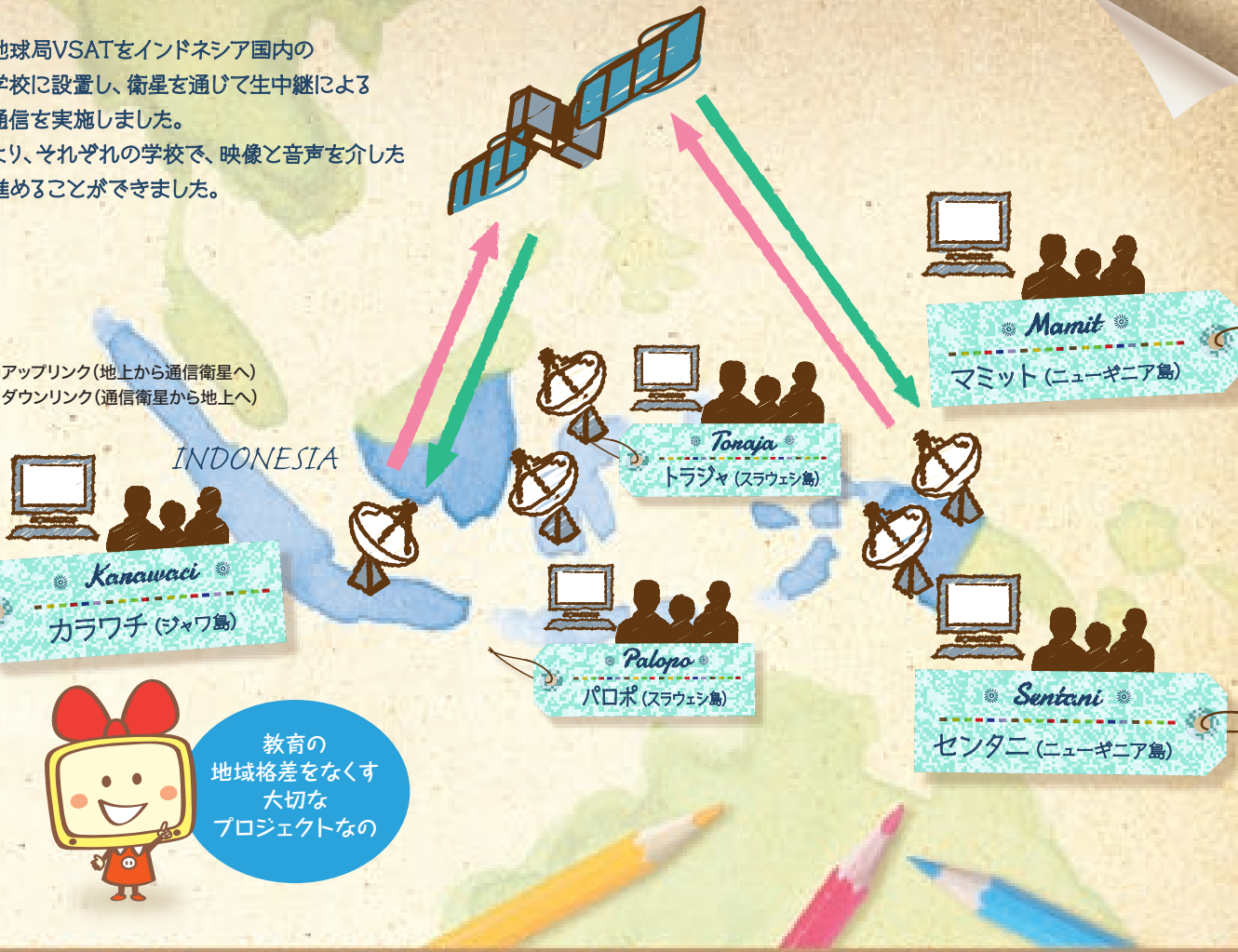
2015年3月にはカラワチ(ジャワ島)、センタニ、マミット(ニューギニア島)の3校を、9月にはカラワチ、マミットに加え、トラジャ、パロポ(スラウェシ島)の4校を衛星回線で結び、双方向でビデオ通信ができる教師向けの研修プログラムが実施されました。

衛星は
教育にも役立つ
いるんだね!



超小型地球局VSATをインドネシア国内の複数の学校に設置し、衛星を通じて生中継によるビデオ通信を実施しました。これにより、それぞれの学校で、映像と音声を介した研修を進めることができました。

アップリンク(地上から通信衛星へ)
ダウンリンク(通信衛星から地上へ)



COMMENT

プロジェクトリーダーからのコメント「社会の役に立つ衛星を」

広大な国土に様々な民族が暮らすインドネシアは、地域によって言語や教育の内容が大きく異なります。さらに、本プロジェクトを通じて、教える側の教師の質にも地域差があることがわかりました。広いインドネシアでは、地方教師の研修機会が限られているのです。

今回、教師向け研修を遠隔で行うことを実現するため、当社衛星を利用いただきました。今後も、子どもたちの教育支援を目指して、教育格差の解消など社会貢献に積極的に取り組んでいきます。



スカパーJSAT株式会社
経営管理部門 経営戦略本部 人事部長・
東南アジア教育支援プロジェクトリーダー

くぼ た かず お
窪田一夫

ようこそ! スカパーJSAT

海外事業所へ

誌上見学会

第4回

主にアジア・オセアニア地域の 衛星ビジネスを開拓・推進する スカパーJSATの海外拠点です。

株主の皆様へ、スカパーJSATの様々な拠点やサービスの
舞台裏をご覧ください誌上見学会。今回は、宇宙・衛星事業
の海外事業所のうちアジア拠点として機能する、香港支店
とジャカルタ駐在事務所についてご紹介します。

ふだんは
見られない
ところも
ご案内します。

香港支店

アジアの中心地から、スカパーJSATの海外衛星事業を報告します。

香港支店は当社の海外展開に伴い、2002年10月に駐在事務所として開設しました。海外売上
の比率が順調に増加する中、営業活動を強化するため、2007年に支店化しています。現在の営業体制
は、現地採用3名を含む合計6名です。香港支店は、インドネシア以外のアジア・オセアニア地域での
市場開拓に加え、中東・アフリカの情報収集・新規開拓も担当しています。香港は金融で有名ですが、
当社以外にも複数の海外衛星事業者の拠点があり、また衛星に特化した展示会も例年開催されま
す。さらに、東南アジア、オセアニア、中東といったエリアへのアクセスも便利で、衛星事業者にとってビ
ジネスがしやすい環境です。

私たち香港支店のお客様は、主に各国の通信事業者であり、その通信事業者を通して、様々な企
業に衛星回線を提供しています。例えば、オーストラリア近海は天然ガスの産出が豊富で、天然ガス
の掘削のための設備(リグ)が海上に設置されますが、沖合のリグには、地上の通信回線が届きませ
ん。このため、衛星経由で通信を確保することが主流となっています。このような需要を確実に取り込
んだことで、ここ5年間で当社の海外ビジネスの売上は2倍に増加いたしました。さらなる成長に向け
て、今後もアジア・オセアニア、そして中東・アフリカ展開を香港から積極的に取り組んでまいります。



香港支店従業員一同
左から3番目は小池克明香港支店長

新興国での
衛星回線利用も
活発化してるよ。



ジャカルタ駐在事務所

インドネシアの高まる経済成長とともに、市場開拓に注力しています。

インドネシアは、日本と同じく、多数の島々で構成され、その数は1万以上と言われています。これらの島々との通信を確立するために海底ケーブルを敷設すると、多額の費用と膨大な時間を要します。一方で、衛星はアンテナと送受信設備さえ設置すれば、すぐに通信が確立できます。こうした容易性から、インドネシアでは衛星の利用が広く普及しています。当社は、インドネシアを特に有望な市場と位置づけ、さらに注力すべくジャカルタ駐在事務所を2012年5月に開設いたしました。現在、事務所長である日本人1名と現地採用4名の計5名体制で業務を行っています。

主な衛星の利用方法には、携帯電話向け基地局間のネットワークへの利用があります。インドネシアでは、人口の増加に加えスマホでのSNS等の利用も大変盛んであるため、携帯向けの通信容量が拡大しています。また、衛星放送市場も活発であり、ここ数年で様々な企業が新規参入し、そのうちのひとつである「Big TV」は、当社の衛星を利用して、インドネシアで衛星放送を提供しています。インドネシアは、ASEANの中心国家として、今後も高い経済成長に伴い、通信需要の増加が見込まれています。このような需要を取り込むべく、今後もインドネシアでの活動をより積極化してまいります。



ジャカルタ駐在事務所従業員一同
左から2番目は池野陽ジャカルタ駐在事務所所長

インドネシアの
衛星需要はすごく
伸びているのね！

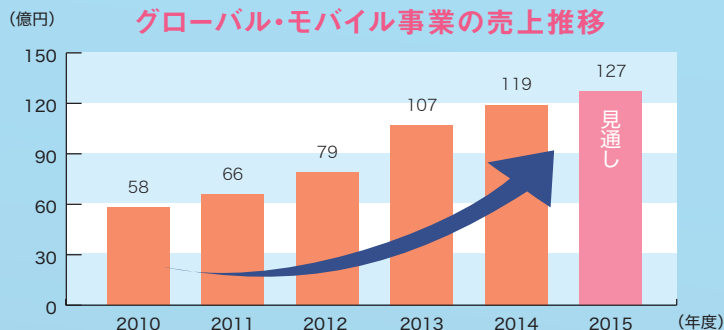


ご見学の締めくくりに



宇宙・衛星事業のグローバル展開を推進。

当社は、宇宙・衛星事業のアジアにおけるプレゼンス向上や事業拡大を図るべく、香港とジャカルタにそれぞれ戦略拠点を置いています。香港支店、ジャカルタ駐在事務所は、今後も本社のグローバル事業部と連携して、主にアジア展開を積極的に推進していきます。

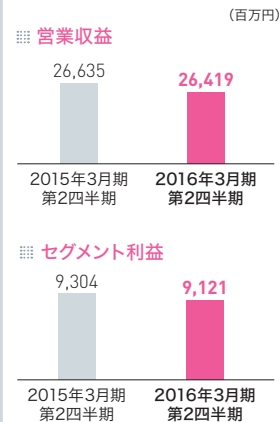




2016年3月期第2四半期の概況

衛星通信の耐災害性に対する評価と需要の高まりに応え、国内BCP需要対応として「EsBird」や「ExBird」等の衛星ソリューションサービスを積極的に販売してきましたが、この5月より東日本高速道路(株)、中日本高速道路(株)、および西日本高速道路(株)の3社向け次期衛星サービスの提供を開始しました。また海外衛星ビジネスの拡大については、成長が期待されるアジア・オセアニア地域の市場を開拓するとともに、北米およびロシア地域での営業展開も継続的に推進しました。今後は海外の衛星オペレーターとの連携や、衛星フリートの増強により、さらなる収益の拡大を目指します。また移動体衛星通信ビジネスについては、船舶および航空機向けインターネット接続サービスを中心に、当社グループ衛星回線利用の拡大と同時にインマルサット衛星を利用した通信サービスも積極的に展開しています。

営業収益は、船舶向けインターネットサービス収入等が増加した一方で、有料多チャンネル事業における標準画質サービス終了に伴う放送トランスポンダ収入の減少等により、前年同四半期比で0.8%の減収、セグメント利益は2.0%の減益となりました。

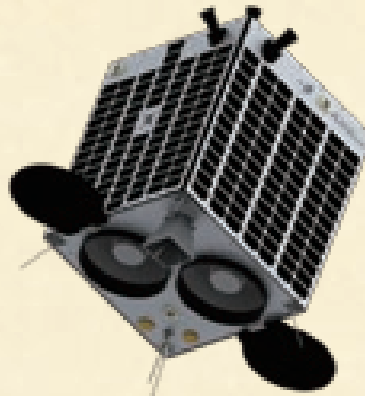


注目 POINT

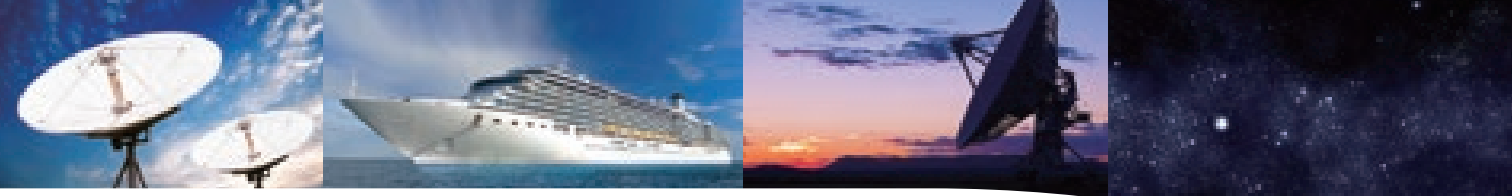
～アクセルスペース社に出資し業務提携～ 超小型衛星によるビジネス拡大へ

スカパーJSATは地球観測を目的とした超小型衛星を開発する株式会社アクセルスペースに出資し、同社との業務提携に関する協議を進めています。同社の衛星は従来の同性能の衛星と比較して圧倒的な低コストで製造することが可能であり、2017年中を目処に地球観測用の超小型衛星3機を打ち上げ、地球観測画像事業への参入を予定しています。この業務提携を通じ、宇宙・衛星事業の拡大を目指します。

また、当社子会社である株式会社衛星ネットワークでは、Planet Labs(米国)、Elecnor Deimos(スペイン)の小型衛星で取得する画像情報の提供を予定しています。



GRUS(グルース):超小型地球観測(リモートセンシング)衛星



WHAT'S NEW



新たな取り組み

海外事業の拡大に向けた 共同衛星事業に基本合意

世界最大手Intelsat（本社:ルクセンブルク）との 共同衛星事業「Horizons 3e」

スカパーJSATは衛星通信事業世界最大手のIntelsatと、両社の米国子会社を通じた共同出資により設立する衛星保有会社「Horizons-3 Satellite LLC」を通じて衛星「Horizons 3e」を調達し、東経169度において共同衛星事業を行うことに基本合意しました。

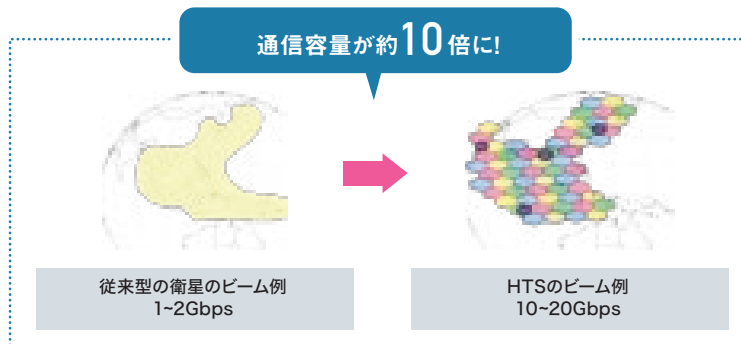
「Horizons 3e」は2003年に西経127度に打ち上げられた「Horizons-1」、2007年に打ち上げられた「Horizons-2」、2009年に打ち上げられた「JCSAT-85」（区分所有）に続くIntelsatとの4機目の共同衛星で、2018年下期に東経169度に打ち上げられる予定です。

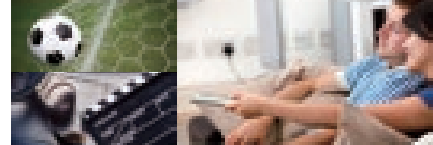
アジア・太平洋地域の衛星需要は、今後も成長すると予測されていますが、「Horizons 3e」は当社グループ初となるHTS (High Throughput Satellite) であり、航空機・船舶等での利用を含めアジア・太平洋地域で高まるモバイル需要に対応していきます。

従来型衛星と HTS（High Throughput Satellite）の違い

大容量通信に対応可能なHTSは、航空、船舶、政府系需要に加え、移動体通信の中継回線として高い需要が見込まれています。今後の増加が期待されるアジア・太平洋地域の衛星通信需要に対しては、HTSによる取り組みを強化していきます。

- HTSシステムは、隣り合うスポットビームにおいて異なる周波数を用いると同時に隣接していないスポットビームでは同じ周波数リソースの再利用が可能です。
- 従来の衛星と比較した場合、HTSの通信容量は約10倍となります。



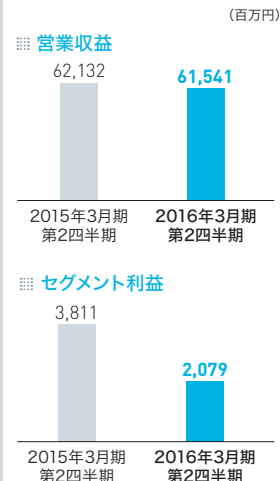


2016年3月期第2四半期の概況

加入基盤の強化に向けた取り組みについては、6月から7月および9月から10月にかけて「加入料0円キャンペーン」を、9月には「スカパー！／スカパー！オンデマンド10日間無料放送キャンペーン」を実施し、録画視聴、オンデマンド視聴などのスカパー！の多様な楽しみ方を提案しました。また、プロ野球のキャンプ中継やオープン戦中継、「Jリーグ・スカパー！ニューイヤーカップ」の全試合独占生中継など、シーズン早期の加入獲得を目的としたオフシーズンからの取り組みが奏効し、プロ野球やJリーグ関連の加入状況が好調に推移しました。「スカパー！プレミアムサービス」の加入者獲得については、今後は、メーカー各社による専用チューナー内蔵の4K対応テレビ発売に合わせた販売促進活動を強化します。

コンテンツ強化の取り組みについては、サッカー南米選手権「コパアメリカ チリ2015」を「スカパー！」および「スカパー！オンデマンド」で放送・配信し、競合メディアとの差別化を図りました。また「スカパー！4K総合」の編成の充実を図るため、国内外大物アーティストによるライブイベントの完全生中継や独占放送に加え、ハリウッドメジャー作品を「スカパー！4K映画」で、オリジナルドラマ「アカギ」を「BSスカパー！」で放送しました。

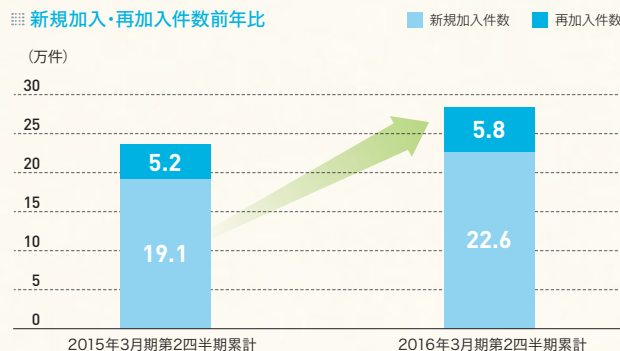
以上の結果、営業収益は業務手数料収入が増加したものの、標準画質サービスの終了やハイビジョンサービスの加入者減により、前年同四半期比で1.0%の減収、セグメント利益は45.4%の減益となりました。



注目 POINT

加入者獲得への取り組みが奏功し、スカパー！新規加入件数が増加

加入獲得に向けたコンテンツ強化をはじめ、スポーツ関連ではオフシーズンからの取り込みを図るなど番組編成の充実に向けた取り組みが奏功し、第2四半期の新規加入件数は前年同四半期比で約3万5千件上回る22万6千件となりました。純増数については約2万件となり、2015年9月末の累計加入件数は348万2千件となりました。



● 加入の状況

新規加入件数

	2015年3月期 第2四半期累計	2016年3月期 第2四半期累計
スカパー！ 合計	19.1万件	22.6万件
スカパー！	16.6万件	19.6万件
スカパー！ プレミアムサービス	2.1万件	2.5万件
スカパー！ プレミアムサービス 光	0.5万件	0.4万件

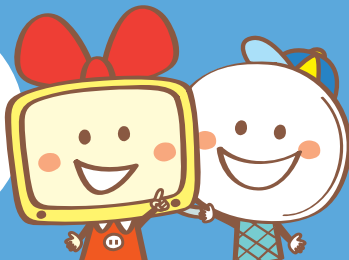
純増数 △27.4万件* 2.0万件

ARPU(¥) 2,214 2,223

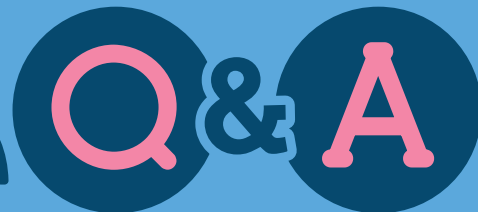
SAC単価(¥) 34,346 35,255

※2014年5月末にスカパー！プレミアムサービス標準画質サービスを終了したことにより、2015年3月期における解約件数が一時的に増加しました。

株主の皆様の
疑問に
お答えします！



ここが
知りたい



Q.1

宇宙・衛星事業の
成長戦略はどうなっているの？

A.1

衛星ビジネスの成長に向けた取り組みとしては、世界最大手の衛星オペレーターであるIntelsatとの共同衛星事業を通じてグローバル市場における需要開拓に取り組んでいます。今年11月に「Horizons 3e」の共同調達に合意し、50:50の出資比率でジョイント・ベンチャーを設立します。今後は、アジア・太平洋地域の需要を取り込んでまいります。打ち上げ後4～5年で、年間(0.8～1.0億ドル)の売上を目指しています。(▶詳細はP8へ)

また最近では世界市場で注目を集め、異業種の参入も相次ぐ低軌道の小型衛星ビジネスについても取り組みをスタートしています。(▶詳細はP7へ)

❗ ここがポイント

カメラを搭載した小型衛星を複数運用することで、地上の写真を一日に何枚も撮影することができます。このような連続写真は、地上の変化の把握に適しており、農業や建設といった分野に需要があると期待されています。

Q.2

標準画質サービス終了後に
空いたトランスポンダの
今後の利用見通しは？

A.2

空いたトランスポンダのうち2～3本は海外向けの販売用として割り当て、3本は4K放送に利用しています。今後4Kにおいてコンテンツやチャンネルを充実していく予定であることから、4K放送でのトランスポンダの利用拡大が期待されます。

4Kテレビは年末商戦から来年のスポーツシーズン開幕にかけて、販売が本格化すると期待されていますが、当社では4Kテレビ販売をきっかけとしたプレミアムサービスのマーケティング活動を強化していく予定です。

❗ ここがポイント

過去にもデジタルテレビにチューナーが内蔵されたことで「スカパー！」が大きく加入件数を伸ばしたように、4Kテレビに「プレミアムサービス」チューナーが内蔵され、加入時に外付けのチューナーを新たに買う必要がなくなることで、「プレミアムサービス」の加入促進に追い風となるのです。

連結財務情報

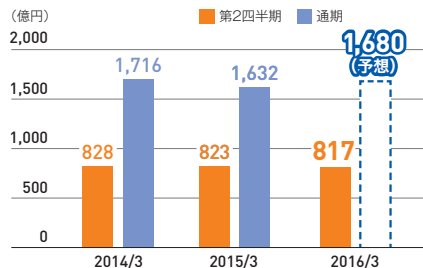
▶ 連結財務ハイライト

(単位:百万円)

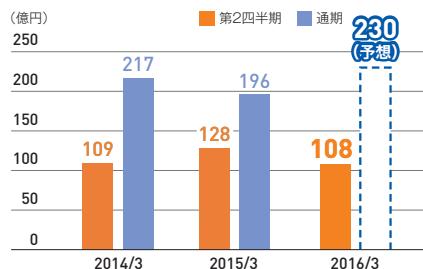
経営成績：	2014/3 第2四半期 (4/1~9/30)		2015/3 第2四半期 (4/1~9/30)	2016/3 第2四半期 (4/1~9/30)	2015/3 通期 (4/1~3/31)
営業収益	82,804	1	82,381	81,756	163,294
営業総利益	28,676		29,819	29,480	59,119
営業利益	10,903	2	12,830	10,871	19,627
経常利益	10,881		12,761	10,884	19,580
税金等調整前四半期純利益	10,945		13,554	10,939	20,362
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,527	3	10,056	7,035	13,515
営業活動によるキャッシュ・フロー	20,760		11,365	14,069	16,633
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,221		△13,212	△16,470	△34,746
フリーキャッシュ・フロー(※)	14,538		△1,846	△2,401	△18,113
財政状態：	2014/3 第2四半期末 (9/30)		2015/3 第2四半期末 (9/30)	2016/3 第2四半期末 (9/30)	2015/3 期末 (3/31)
現金及び現金同等物の四半期末残高	86,392		50,334	57,174	33,963
総資産	299,422		278,674	315,864	282,516
有利子負債残高	50,740		36,827	4 61,721	38,366
純資産	198,350		192,462	203,995	195,640

※フリーキャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

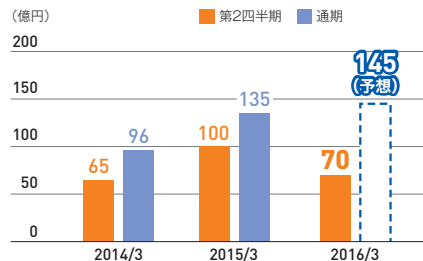
営業収益



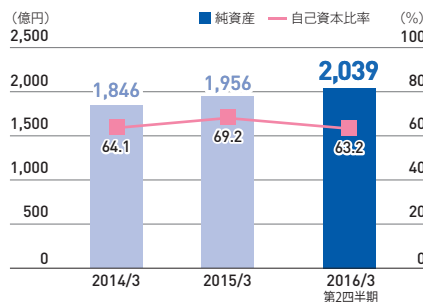
営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



純資産／自己資本比率



損益状況

営業収益①は、「スカパー！」の業務手数料は増加したものの、前年5月に終了した標準画質サービス関連収入の剥落、および累計加入件数減少によるハイビジョンサービス視聴料収入減少等により、前年同四半期比0.8%減少いたしました。営業費用は、ハイビジョンサービスへの移行費用は減少したものの、加入者獲得のためのコンテンツ費用の増加等により、前年同四半期比1.3%増となり、**営業利益②**は前年同四半期比15.3%減となりました。**親会社株主に帰属する四半期純利益③**は前年同四半期比で投資有価証券売却益が減少したことに加え、グループ内組織再編により子会社繰越欠損金の回収が可能となった前年同四半期に比べ法人税等が増加したことにより前年同四半期比30.0%の減益となりました。

キャッシュ・フロー

営業キャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費に加え、たな卸資産の増加による支出、未払金の減少による支出、前受収益の増加による収入等により、14,069百万円の収入となりました。投資キャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等により、16,470百万円の支出となりました。営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローの合計であるフリーキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

財政状況

総資産は2015年3月末に比べ、増加しました。資産の主な増加は、現金及び預金、有価証券、負債の主な増加は、未払法人税等、前受収益、社債です。なお、増加した**有利子負債④**は、設備投資資金の調達を目的として発行した国内無担保社債20,000百万円です。親会社株主に帰属する四半期純利益の増加等により純資産は増加しましたが、負債総額が前期末から増加したため、自己資本比率は6.0ポイント減少し、63.2%となりました。

第9回株主様アンケートご協力のお願い

昨年度に引き続き株主様アンケートを実施させていただきます。ぜひ、皆様の株式投資に関するお考えや当社グループへのご意見をお寄せください。今後の経営およびIR活動の参考とさせていただきます。回答方法は下記のいずれかの手順にてお願いいたします。



はがき

同封のはがきにご記入いただき、郵便ポストに投函してください。

ご回答メ切

2016年1月4日(月)
到着分まで



ウェブ

当社ウェブサイトへアクセスし、株主様アンケートのバナーをクリックしてください。アンケートサイトに移動しましたら、郵送された株主通信に記載のログインIDをご入力いただき、回答をお願いいたします。

URL : <http://www.skyperfectjsat.co.jp/>

ご回答メ切 2016年1月4日(月)アクセス分まで

プレゼント



アンケートにご回答いただいた方の中から**抽選で100名様**に、2016年卓上カレンダーをプレゼントいたします。なお、発表は発送をもって代えさせていただきます。

カレンダー発送時期

2016年1月中

IR活動のご報告

コーポレートガバナンス・コードへの対応について

2015年6月に、東京証券取引所により企業行動規範「コーポレートガバナンス・コード」が導入されました。これは政府の成長戦略の「第三の矢」として閣議決定された「日本再興戦略」の中で、日本企業が「稼ぐ力」を取り戻すための施策のひとつとしてコーポレートガバナンスの強化が明示されたことを受けて作成されたものです。東証一部上場企業は5つの基本原則のもと、73原則すべてについて遵守状況の確認が求められています。当社では以下2つの原則を除いて対応を実施しており、未実施の2原則についても今後対応していく方針です。

当社未実施の原則への対応方針

●原則3-1 (v)

取締役会が経営幹部の選任と取締役・監査役候補の指名を行う際の個々の選任・指名についての説明

取締役・監査役の選任にあたっては、株主総会招集ご通知参考書類に、社外取締役、社外監査役候補者の経歴を記載していますが、今後は招集ご通知にすべての取締役・監査役の選任理由を記載いたします。

●補充原則4-11-3

取締役会は、毎年、各取締役の自己評価なども参考にしつつ、取締役会全体の実効性について分析・評価を行い、その結果の概要を開示すべきである。

今後は各取締役による自己評価を通じた取締役会の分析・評価を毎年実施し、取締役会がより実効的に機能するよう運営方法等を見直します。2015年度分の分析・評価結果は2016年6月に開示する予定です。

会社情報

■ 会社概要 2015年9月30日現在

会社名	株式会社スカパーJSATホールディングス (SKY Perfect JSAT Holdings Inc.)
設立	2007年4月2日
資本金	100億円
従業員数	808名(連結)2015年3月31日現在
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目14番14号
電話番号	03-5571-1500(代表)
URL	http://www.skyperfectjsat.co.jp/

取締役および監査役

代表取締役会長	西山 茂樹	取締役(非常勤)	中谷 巖
代表取締役社長	高田 真治	取締役(非常勤)	森 正勝
取締役	仁藤 雅夫	取締役(非常勤)	飯島 一暢
取締役	小森 光修	取締役(非常勤)	平田 正之
取締役	小山 公貴	取締役(非常勤)	小笠原倫明
取締役	横水 伸次	監査役	坂本 憲昭
取締役	小牧 次郎	監査役	小川 晃
		監査役(非常勤)	勝島 敏明
		監査役(非常勤)	藤田 徹也

■ 株式情報 2015年9月30日現在

発行済株式総数 344,603,700株 株主総数 29,711名

大株主

株主名	持株数	持株比率*
伊藤忠・フジ・パートナーズ(株)	76,568,800	24.84%
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	26,057,000	8.45%
住友商事(株)	22,258,400	7.22%
日本テレビ放送網(株)	20,891,400	6.78%
(株)東京放送ホールディングス	18,434,000	5.98%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(三井住友信託銀行再信託分・三井物産(株)退職給付信託口)	13,405,200	4.35%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	7,368,700	2.39%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	5,041,900	1.64%
ビーエヌピー パリバセック サービス ルクセンブルグ ジャスデック アバディーン グローバル クライアント アセット (常任代理人 香港上海銀行東京支店 カストディ事業部)	4,373,600	1.42%
(株)電通	4,059,400	1.32%

上記のほか、自己株式が36,387,600株あります。
* 持株比率は、自己株式を除いて計算しております。

免責事項
本株主通信に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	毎年3月31日
配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
取引市場	東京証券取引所 市場第1部
証券コード	9412
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

お問合せ先

お取扱窓口

証券会社に口座をお持ちの場合、各お取引の証券会社等へお問合せ下さい。
証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、下記「お取扱店」にてお取次いたします。

お問合せ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

お取扱店

みずほ証券 本店および全国各支店／プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
みずほ信託銀行 本店および全国各支店

未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店
(みずほ証券では取次ぎのみとなります)

※支払明細の発行については、上記の「お問合せ先」または「お取扱店」をご利用ください。

もう
ご覧いただい
ていますか？

スカパー!の

おまけ

チャンネル、BSスカパー!

スカパー!のご加入者が無料でお楽しみいただけるチャンネル、「BSスカパー!」では、音楽、バラエティ、アニメ、スポーツ、ドラマ、ニュース・ドキュメンタリーと多彩なジャンルをご用意。広告放送である地上波では見られないスカパー!独自の番組作りを目指しています。今回ご紹介するのは人気の音楽番組「FULL CHORUS～音楽は、フルコーラス～」です。

FULL CHORUS!
音楽は、フルコーラス

「FULL CHORUS」
～音楽は、フルコーラス～

**BSスカパー!
オリジナル
音楽番組!**

全曲フルコーラスの純真な音楽番組

地上波の音楽番組では曲を短くカットしたテレビサイズが基本。フルコーラスで聞くことはあまりありません。BSスカパー!の「FULL CHORUS」は「最初から最後まで全部聴いてほしい」というアーティストの願いをカタチにした番組です。毎回複数のアーティストをゲストに、それぞれの新曲や代表曲をすべてフルコーラスでオンエア。MCのベッキーさんとハマ・オカモトさんがアーティストの立場で楽曲を掘り下げる音楽トークも魅力です。かつてない音楽番組をどうぞお楽しみください。

BSスカパー!チャンネルをお楽しみいただくには…

- ▶スカパー!をご契約の方は**チャンネル241**、
プレミアムサービスをご契約の方は
チャンネル585に合わせるだけで、
24時間無料でご覧いただけます。
- ▶スカパー!未加入の方はまずスカパー!に
ご加入ください。

スカパー!

<http://www.skyperfectv.co.jp/guide/>

プレミアムサービス

<http://www.skyperfectv.co.jp/premium/guide/>

お問い合わせはスカパー!カスタマーセンターへ フリーダイヤル:0120-039-888

※お客様の個人情報に関する取り扱いにつきましては、当社公式サイト上のプライバシーポリシーをご確認いただき、同意の上、お申込みください。



「FULL CHORUS」
～音楽は、フルコーラス～(写真)

